

10. 台湾茶（テロワール）調査

岸 泰子

1. はじめに

台湾（中華民国）は、京都の宇治と同じく、茶の生産・加工業が盛んである。茶の生産は、ワインと同じく、土壌・気候・風土（テロワール）と深く関わるということが知られている。

本調査は、台湾新竹市周辺で生産される蛾眉茶と関西茶を対象に、各茶の歴史の変遷、茶畑の分布、茶工場の実態などを明らかにすることを目的とした。なお、本調査は科学研究費補助金（基盤研究（A）「テロワールによって捉える土地と文化の新たな領域史の構築」（研究代表：中川理（京都工芸繊維大学）、JSPS KAKENHI 17H01310）の一環である。

2. 調査の概要

調査は、以下のとおり実施した。

調査日 2019年8月27～30日

調査員 京都府立大学 上杉和央、岸泰子（以上、教員）、竹内祥一朗（博士前期課程）
京都工芸繊維大学 中川理、大田省一（以上、教員）、博士前期課程学生2名

調査地 台湾新竹市蛾眉地区・関西地区

調査内容 ヒアリング調査、茶畑分布調査、茶工場（建造物）調査（調査票作成、実測調査（平面図・断面図・配置図）、写真撮影）など

蛾眉地区・関西地区の茶生産業者で聞き取り調査を実施し、各地区の茶生産史などを確認した。また、地区内にある茶畑の分布状況も確認した。

蛾眉地区では、茶工場の建造物調査を実施した。この調査で得られた成果と歴史学科で継続しておこなっている宇治茶生産を比較検討することで、台湾茶・宇治茶、そしてテロワールという概念の特性が明らかにできると思われる。

なお本調査の成果は、今年度末に開催された上記科研費課題報告会で発表された。